

烏羽離宮跡第117次調査現地説明会資料

昭和61年2月16日

調査地 京都市伏見区竹田浄菩提院町
調査面積 約360㎡
調査期間 昭和61年1月29日～現在継続中
調査主体 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

1 はじめに

調査地は烏羽離宮跡東殿に推定される地区にあたり、現在の近衛天皇陵の西側、烏羽天皇陵の南側に位置する。東殿は、これまで多数の発掘調査が実施され、建物・隅池・溝などの遺構が良好な状態で検出されている。調査区の東側に接して行なわれた第112次調査では、隅池及び土塁状遺構に伴う地業が検出された。地業は杭と板や竹で土留めを行ない、砂や土を盛り上げたものである。また117次として、このたびの説明部分は、その西に隣接する部分で、池の汀線である。

2 調査成果

検出した遺構の汀線は、緩やかな傾斜面を形成し、帯大の礎を敷きつめ洲浜を形造っている。庭石は池の汀に1個、調査地の西方に2個発見された。この他、庭石の破壊された痕跡を3ヶ所で発見している。この洲浜は南から北へ傾斜している。すでに第11次で見た汀線も北へ傾斜しているので、それを池の南岸と見た時、それより北の汀線は池の中に島があることを確定する。その規模は東西約40m、南北約42mある。池の水位は約13m 20～50cm前後である。

3 まとめ

この地に池のあることは、第10・11・86次の調査により、東西約100m、南北約150mの広さにわたるもので、平安時代末の優雅な趣を示すものと推定し

ていたが、細部について或はその中に島のあることは予想はしていても明確にすることはできなかった。

このたびの112・117次の調査によって、中島の形態とそれへわたる道等を明らかにすることができ、全体としてすばらしい景観をなすと想定できるようになった。

以上のことから、この池が東殿のものとし、東殿の位置をこの池の西北にあたることが、50m道路の調査の成果を基にして知ることでもできるようになった。

このことは、調査を重ねてきても、今一つ明らかにすることができなかった、東殿の規模を決定する鍵を得ることになったことを示している。

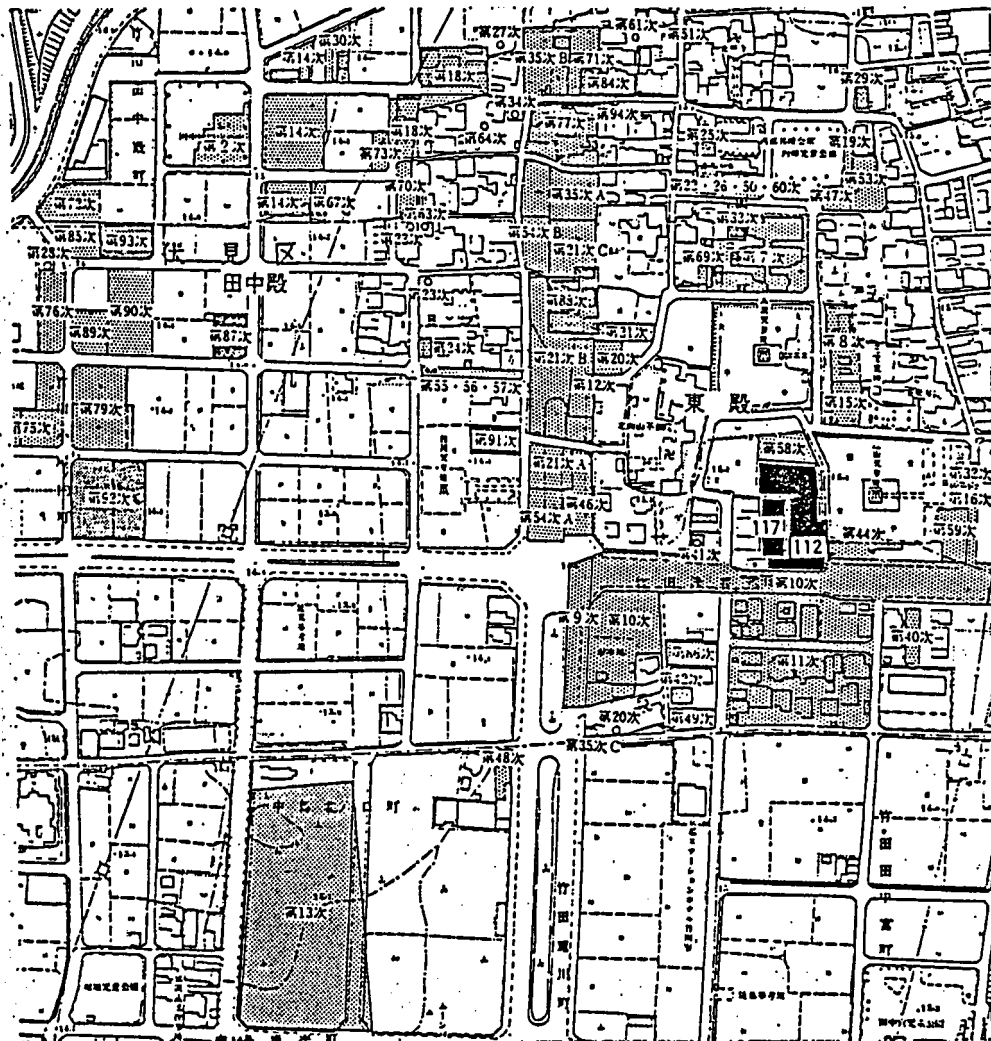


図1 調査位置図

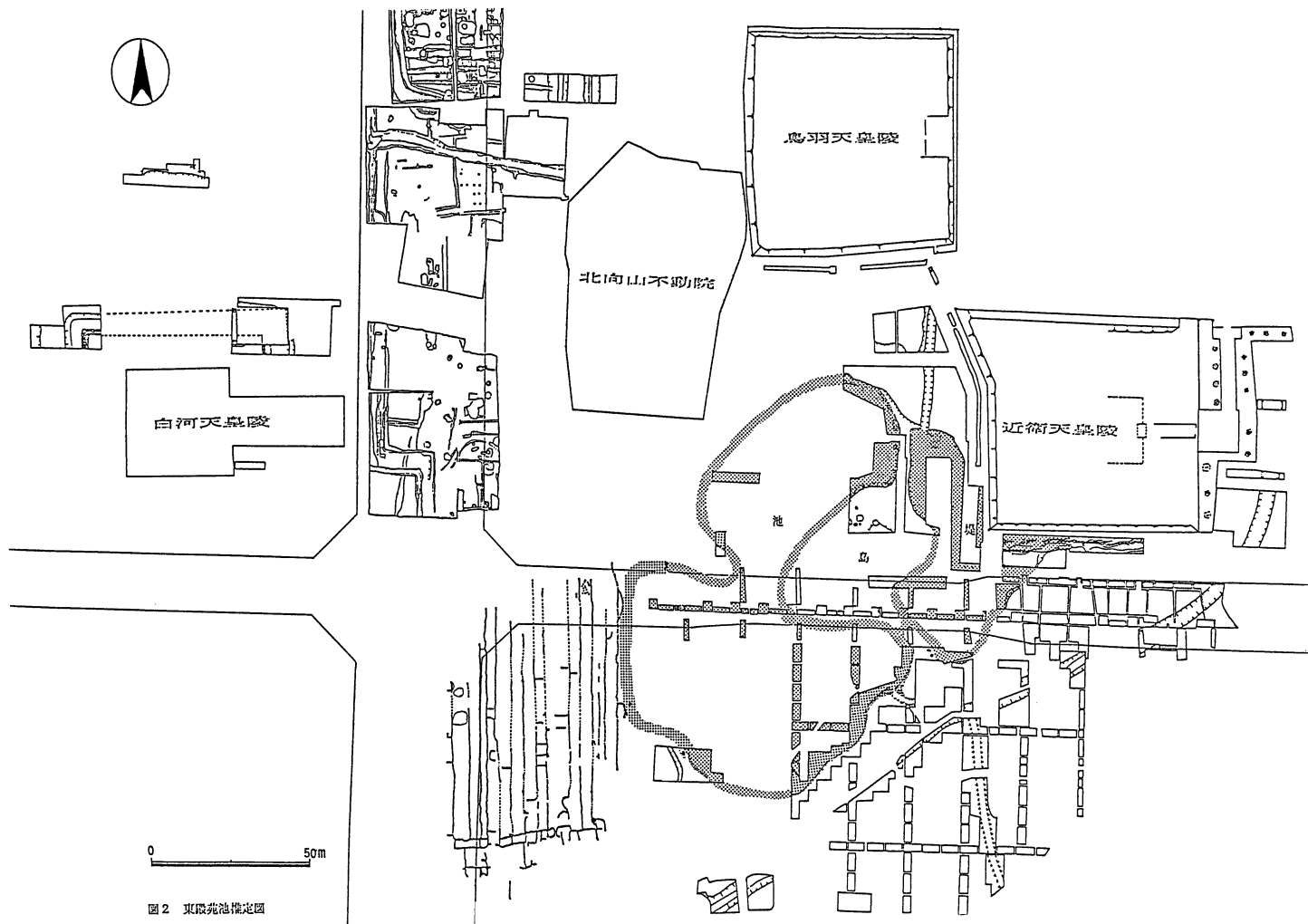


圖2 東殿苑池推定圖

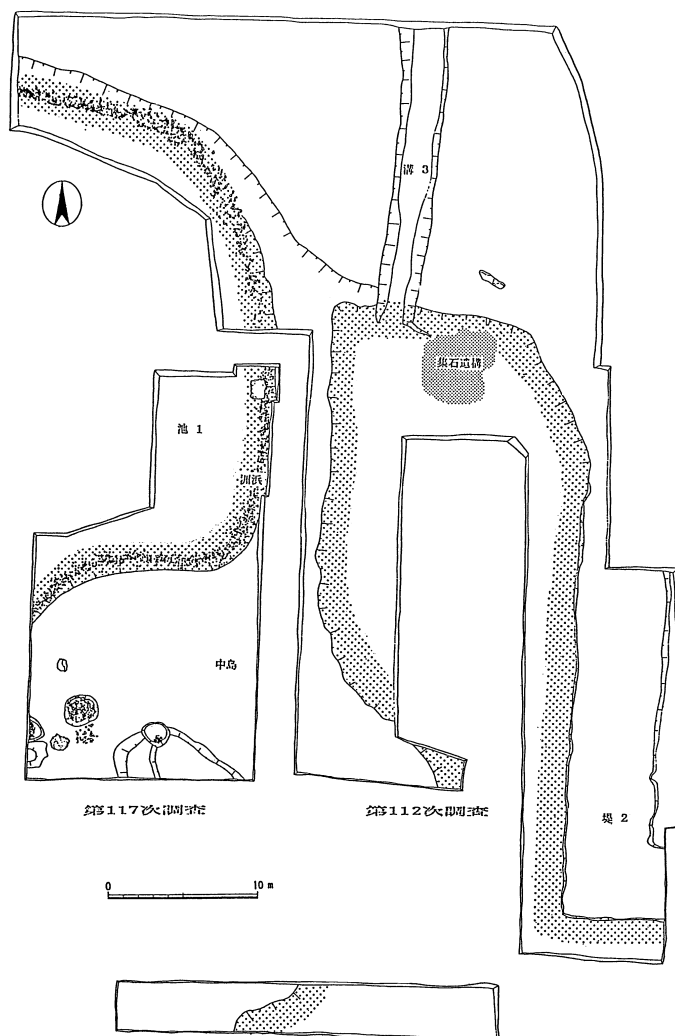


圖3 第1112・第1117次遺構圖